

# 2020年日本経済の展望

三菱UFJモルガン・スタンレー証券景気循環研究所長

嶋中雄二

- \* 目先、底入れに向かう世界景気
- \* 米国は20年7-9月期がピークか
- \* パウエルFRB議長の政策スタンス
- \* 米中貿易戦争休戦で中国景気も好転か
- \* 消費税と台風が響いた日本の景気
- \* 日本もオリンピック後に不況色強まる
- \* 日経平均は2020年前半に二・五万円前後も
- \* 不動産実物投資がバブル期並みに
- \* これからブロンズ・サイクルに入る日本
- \* 日米の共同覇権で中国、インドに對抗



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

もう1回、来週もございますが、今日は年末恒例の新年の景気見通しということで、ここしばらく毎年嶋中先生においでいただきありがとうございます。今日も非常に精緻な分析をしていただき、来年の世界と日本の経済がどうなるかといったところを十分皆さんにお聞きいただけだと思います。たいへん世界が動いておりますし、マーケットも少し荒れておりますので、ちょっとこれから気を落ち着けて先生のお話をじっくり聞いていただきたいと思えます。

それでは嶋中先生、よろしく願いいたします。（拍手）

目先、底入れに向かう世界景気

嶋中 理事長、ありがとうございます。

本日も、毎年と同じようにやや楽観的なお話をするつもりではあるのですが、2020年というのは、東京オリンピック・パラリンピックがある年でございますので、当然盛り上がるだろうということは何となく皆様思われているのではないかと思います。ただ、その後どうなるかということにつきましては、これは一度だけの記録であります。1964年の10月に東京オリンピックがあった後、昭和40年不況というのが直後にやってまいりまして、1965年の10月まで1年間、それなりに厳しい景気後退があったわけがございます。